

文化も言語も違う人たちと

三原市は、シンガポールと交流を持っており、八月には、三原からシンガポールへ、そして、十一月にはシンガポールから三原へと中学校二年生が相互交流をしています。

十一月、第三中学校では、中学校一年生の各学級で一日、授業や給食、掃除と一緒に行動するなど、日本の中学校生活を体験しながら交流しました。この日は、一年生は休憩時間も日本語を使わずに過ごし、シンガポールの生徒に、日本での学校生活に親しんでもらえるように様々な工夫をしていました。

しかし、英語が得意でない人や、人と話すことが苦手な人にとっては、外国の人と話すことは難しかったと思います。そのため、僕は学校やこのまちのグローバル化がとても大切だと思います。今、日本は急速なグローバル化がすすんでおり、外国からの留学生や外国人観光客などここ三原でも外国の人と関わる機会がとて多くなっています。文化も言語も違う環境での生活で、一番に感じるのは不安感です。

そのために初めは、英語を勉強することも大切ですが、外国人とコミュニケーションを取ることも大切だと思います。実際に自分が外国へ行った時のことを考えると、質問に対して、完璧に返すことができなくても、一生懸命に伝えようという気持ちや態度さえあれば、自分の気持ちが相手に伝わるのではないのでしょうか。だから、少しでもいいので、一生懸命に対応する思いやりが一番重要になってくると思います。

このように、このまちが文化や言語の違いを乗り越えて、様々な国の人々が楽しいと思えるような思いやりにあふれたまちになることを願います。



わがまちに望む夢

三原の未来を担う子ども達の声を紹介します
— 連載第36回 —

住みやすい街にするために

社会の授業で、三原市を今以上に住みやすい街にするために、様々な資料を参考に「理想の予算配分」と政策を考え、発表しました。三原市には、「歳入額が市債残高を下回る」「自主財源の減少」という課題があります。これを解決するには、人口の減少、つまり「少子化」を抑える必要があります。私は、二つの政策を考えました。

一つ目は、出産・育児について相談できる施設を充実させることです。一人っ子、二人兄弟・姉妹が多い今、多くのお母さんにとって「初めての子育て」は、不安が多いと思います。誰にも相談できず困っているお母さんや、出産に不安を感じている妊婦さんもいるのではないかと思います。不安を安心して変える施設を設け、利用してもらおうと、安心して出産・子育てをすることができる環境を整えれば、少子化を少しでも抑える効果があるのではないかと思います。

二つ目は、子育てに必要な費用を援助することです。経済的負担を主な理由として出産、あるいは二人目以降の出産を諦める人もいます。三原市がその一部を負担しているのは知っていますが、財政の工夫でその援助額を増やすことができないのでしょうか。

将来、出産・子育てをする際、三原市に安心して出産・子育てができる環境を整えていけば、市外に移り住む人も「三原に戻ろう」「三原に残ろう」と考えるはずですよ。豪雨災害の復興が急がれる今、財政の課題が山積していることは中学生の私にも想像できます。ただ、長い目で見ると、課題の解決に必要なのは、若い人の力ではないのでしょうか。環境を整備し、進行・加速しつつある少子化を少しでも抑え、今以上に住みやすい「ふるさと三原」を創っていきたいです。

